

▼塩酸プロカルバジンカプセル [内]

【重要度】 【一般製剤名】 プロカルバジン塩酸塩 procarbazine hydrochloride 【分類】 抗悪性腫瘍剤 [アルキル化剤]

【単位】 ▼50mg/Cap

【常用量】 ■ML: 50~100mg/日で開始し, 約1週間以内に漸増して150~300mg/日を臨床効果が明らかとなるまで連日投与 [悪性リンパ腫の寛解導入までに要する総投与量は通常5~7g]

■悪性星細胞腫, 乏突起膠腫成分を有する神経膠腫に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法: 60~75mg/m²/日を14日間経口投与し, これを6~8週毎に繰り返す [体表面積より算出されたプロカルバジンの1日量が75mg未満の場合は50mg, 75mg以上125mg未満となった場合は100mg, 125mg以上175mg未満となった場合は150mgを1日1~3回に分割投与]

【用法】 1日1~3回

【透析患者への投与方法】 腎障害患者には慎重投与 [排泄遅延のため] (1)

【その他の報告】 減量の必要なし (Kintzel PE and Dorr RT: Cancer Treat Rev 21: 33-64, 1995)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 腎障害患者には慎重投与 [排泄遅延のため] (1)

【その他の報告】 減量の必要なし (Kintzel PE and Dorr RT: Cancer Treat Rev 21: 33-64, 1995)

【特徴】 メチルヒドラジン誘導体で, 悪性リンパ腫, 悪性星細胞腫などに適用される経口剤。

【主な副作用・毒性】 骨髄抑制, 間質性肺炎, 痙攣, 肝機能障害, 消化器症状, 脱毛, めまい, 皮膚障害など

【安全性に関する情報】

【吸収】 ほぼ完全に吸収されると推測 (1)

【F】 吸収されるが, 速やかにアゾ誘導体に代謝される (1)

【tmax】 1hr (1)

【代謝】 急速に代謝され, 酸化物であるアゾ誘導体となり, さらにテレフタル酸イソプロピルアミドとなって尿中に排泄される (1) 非酵素的に酸化されてアゾ誘導体となる (Swaffar DS, et al: Oncol Res 4: 49-58, 1992) アゾ体のAUCは未変化体の45倍 (Preiss R, et al: Anticancer Drugs 17: 75-80, 2006)

【排泄】 尿中回収率70% [iv, 24hrまで] (1)

【CL/F】 35.8L/min (Preiss R, et al: Anticancer Drugs 17: 75-80, 2006)

【t1/2】 未変化体9.2min, アゾ体の消失はより遅い (Preiss R, et al: Anticancer Drugs 17: 75-80, 2006)

【蛋白結合率】 資料なし (1)

【Vd】 資料なし (1)

【MW】 257.76

【透析性】 資料なし (1)

【O/W係数】 資料なし (1) 水に溶けやすい (1)

【相互作用】 アルコール: ジスルフィラム様作用を有するため併用禁忌 (1) 代謝酵素を誘導する抗けいれん剤併用の影響を受けない (Grossman SA, et al: Clin Cancer Res 12: 5174-81, 2006)

【更新日】 20240625

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。